

参加しませんか あなたのまちの自主防災組織

自主防災組織とは

「自分たちのまちは自分たちで守ろう」と、地域住民により自主的に結成された防災組織。市内では30(※)の組織が活動しており、災害時にすばやく防災活動が行えるよう、防災用の資機材と保管庫を校区の小学校に備えています。

※令和5年(2023年)3月末現在

こんな活動をしています

大規模な災害が発生したとき、地域の被害を最小限にするため各防災組織では普段からさまざまな訓練を行っています。



煙体験訓練



救命訓練



炊き出し訓練



ロープワーク訓練

安心+茨木市の防災

災害情報を緊急周知 防災行政無線スピーカー

緊急地震速報などの大切な情報は市の防災行政無線を自動起動して、瞬時に伝えます。

※下記の電話番号に電話することで直近の放送内容を音声により確認できます。
050-5433-9161(通話料がかかります)



人命救助に活用 自主防災組織用防災資機材

災害時の救助や初期消火に必要な資機材を自主防災組織に貸与しており、これらの資機材も使って地域で訓練を行っています。



減災の1歩は「互近助」付き合いから

災害発生後、警察や消防がすぐに対応できるとは限りません。地域でお互いに助け合い、人命救助や消火にあたることで被害を減らすことができます。

救助できるのは 近くにいる人



「遠水は近火を救わず」。火事を消すことができるのは近くの水、近くの人という意味です。災害が発生したときも助けることができるのは近くの人です。阪神・淡路大震災では、家屋の下敷きなどにより自力で脱出ができなかった人の約8割が家族や隣近所の人に助け出されました。また、長野県北部の地震(平成26年・2014年)では、多くの住宅が全壊、半壊の被害を受けましたが、近隣住民による救助活動により死者は1人も出ませんでした。

まずは隣近所との あいさつを



いざというときに助け合うためには、隣近所の人とあいさつをしたり、回覧板はポストに入れるのではなく、「回覧板ですよ」と手渡したりするなど、普段から言葉を交わすことが大切です。何かあれば声をかけ合える関係と距離感を普段から築いておくことが、大切な家族や地域を守ることに繋がります。災害時に互いに近くで助け合う「互近助」付き合い、今日からあなたも地域で始めてみませんか。



防災・危機管理アドバイザー
山村武彦さん

200か所以上の災害現場で現地調査を実施。実践的防災・危機管理の第一人者として、近くの人を助ける「互近助の精神」を掲げ、防災・危機管理意識の啓発を行い活躍中。